

「御心を行う人」

マルコの福音書 3:31～35

はじめに

今日の箇所は、イエシュアのみもとにその母と兄弟たちが会いにやって来たという出来事についてです。しかし彼らがやって来たその理由は、前回取り上げたマルコの福音書 3:21 から「**イエスはおかしくなった**」という人々の噂を聞いて、イエシュアのその働きをやめさせ、連れ戻すためにやって来たことが記されていました。これに対するイエシュアの対応、言動が今日の内容です。しかしこの出来事もまた単なる出来事、状況説明というだけではなく、聖書の原語であるヘブル語の、その最初の言及の視点で捉えるならば、神のご計画と、その完成である「神の国」を指し示す「型」たとえとして記された出来事であることを今日も述べたいと思います。そして今日も私たち一人ひとりの心が神の御心に寄り添い、そのご計画に思いを巡らし、「神の国、御国」を待ち望む時としてまいりましょう。

【新改訳 2017】 マルコの福音書

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエス呼んだ。

3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。

3:33 すると、イエスは彼らに答えて「わたしの母、わたしの兄弟とはだれでしょうか」と言われた。

3:34 そして、ご自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟です。

3:35 だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

1. 母と兄弟たち

まず「3:31 イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエス呼んだ。」とあります。イエシュアの母と兄弟たちは、イエシュアのおられる家までやって来たのですが、中には入らず、ずっと「外」にいたことが記されています。目に見える状況から推察できるその理由として「3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた」ために自分たちの入る隙間がなかったからだと考えることもできます。しかしここで彼らが立っていた「外」という意味のヘブル語、フーツ(פֶּתַח)の本来の意味を見るならば、この様子が単なる状況説明ではないことがわかります。

【新改訳 2017】 創世記

6:13 神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ようとしている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼし去る。

6:14 あなたは自分のために、ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。

これは「ノアの洪水」とも呼ばれる、創世記に記された、神が洪水によって地上のすべての生命を滅ぼした出来事についての一節です。ここで「箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。」という箇所聖書で最初の「外」フーツが使われています。神がノアに命じて造らせた箱舟の中、その部屋の内に入ったものは全て滅びを免れましたが、逆に箱舟に入らず「外」フーツにいたものは全て滅ぼされました。ですからこのフーツには本来、滅びを指し示す意味合いがあると考えられます。

またイエシュアの母と兄弟たちは「人を送ってイエスを呼んだ」ともありますが、ここに「遣わす、手を伸ばす」という意味のシャーラハ(נלש)が使われており、最初の言及は創世記 3:22 です。

【新改訳 2017】創世記

3:22 神である【主】はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」

3:23 神である【主】は、人をエデンの園から追い出し、人が自分が取り出された大地を耕すようにされた。

これはエデンの園において神の命令に背いたアダムに対する神の御言葉です。ここで「人がその手を伸ばして」と訳されている箇所に聖書で最初のシャーラハがあります。神はここで食べると永遠に生きることができるいのちの木に人がシャーラハ、手を伸ばすことがないようにすると言っておられ「永遠に生きることがないようにしよう」とされました。これがシャーラハに本来指し示された意味であると考えられ、またそれは人をエデンの園の「外」に追い出すことをも意味していると考えられます。

またさらにイエシュアの母と兄弟たちは「イエスを呼んだ」という箇所に使われている「呼ぶ、名付ける」という意味の動詞カーラー(קלר)は本来、神が天地創造の初めに「光を昼と名づけ、闇を夜となづけられ(創世記 1:5)」両者を分けられた、区別されたという出来事を指し示しており、これらのヘブル語の本来の意味を統合すると「3:31 イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスを呼んだ。」という出来事には、「イエスの母と兄弟たち」の存在が、イエシュアがおられた家にたとえられた「神の国」の、その「外」すなわち入れない者の「型」として表されており、そしてそれは滅びる者、永遠に生きることがない者として区別される者、すなわち神に裁かれる者であることが表されていると考えられます。ちなみに「母」を意味するヘブル語エーム(אם)の最初の言及は

【新改訳 2017】創世記

2:24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

で、ここで「母を離れ」とあるように、エームとは本来、妻と結ばれるために「離れる」存在を指し示しています。また「兄弟」を意味するアーハ(אָח)は本来、人類史上最初の殺人事件となる、アダムの二人の息子、兄カインに殺された弟アベルを指し示しており(創世記 4:2)、このアベル(אָבֶל)という名には「つまらない、むなしい」という意味もあり、ヘブル語で見るとこの「イエスの母と兄弟たち」という呼び方自体が、イエシュアから離され、むなしく滅びていく者というような意味が表されていると考えられます。

2. 大勢の人

次に「3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。」という記述について。まず「大勢の人」という箇所に使われているヘブル語の名詞ハーモン(חַמּוֹן)は、本来イスラエルの父祖アブラハムに対する神の約束、契約を指し示す言葉です。

【新改訳 2017】創世記

17:2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたを大いに増やす。」

17:3 アブラムはひれ伏した。神は彼にこう告げられた。

17:4 「これが、あなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。

17:5 あなたの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の父とするからである。

17:6 わたしは、あなたをますます子孫に富ませ、あなたをいくつもの国民とする。王たちが、あなたから出てくるだろう。

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。

神はアブラム(אַבְרָם)が「多くの国民の父となる。」という契約のしるしとして、彼の名にこのハーモン(חַמּוֹן)を織り交ぜて、アブラハム(אַבְרָהָם)と呼ばれたことがわかります。このように「大勢の人」という箇所に使われたハーモンは本来、アブラハムの子孫すなわちイスラエルの民、ユダヤ人を神が大いに祝福されること、これを「代々にわたる永遠の契約として立てる」こと、そして神は「あなたの神、あなたの後の子孫の神となる」すなわち永遠にイスラエルの神となられることを指し示している言葉であると考えられます。ですからこの「3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた」とは、アブラハムとその子孫に対する神のこの契約が、イエシュアを中心として、イエシュアによって成し遂げられることが「型」として表された出来事であると考えられます。ちなみに「イエスを囲んで」という箇所に使われているサーヴィーヴ(סָבִיב)は本来、アブラハムの所有地を指し示す言葉であることが、この最初の言及である創世記 23:17 からわかります。

【新改訳 2017】創世記

23:17 こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわち、その畑と、畑地にある洞穴と、畑地の周りの境界線内にあるすべての木は、

23:18 その町の門に入るすべてのヒッタイト人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。

23:19 その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。

これはアブラハムがその妻サラを葬るための墓地を買い取った時の場面で、「畑地の周りの境界線内」と訳されている箇所に聖書で最初のサーヴィーヴがあります。そしてそれは確かに「アブラハムの所有」の地を指し示していることがわかります。それは具体的には「ヘブロン」という町で、ここは後にイスラエルの王ダビデが最初に王国を設立した場所です。そしてさらに「イエスを囲んで座っていた」という箇所で「座る」という意味で使われている動詞ヤーシャヴ(יָשַׁב)は本来、「住む、とどまる」という意味で使われている言葉です（創世記 4:16）。

ですからこれらの言葉の本来の意味を統合して「大勢の人がイエスを囲んで座っていた。」という出来事を捉えるならば、これは神がアブラムすなわちアブラハム、さらにその子孫であるイスラエルの民に対して約束された祝福の契約とは、イエシュアが彼らの中心すなわち王となって、アブラハムの所有の地においてともに住むことである、ということが指し示された「型」であると考えられます。

3. イエシュアを捜して

そしてこれに続いてイエシュアに対する伝言として記されている「3:32…ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」という内容についてですが、このイエシュアの母と兄弟たちが外にいたという意味については先ほど述べたとおり、イエシュアから離れ、滅びる者、つまりイエシュアを神の御子メシアとして信じない、受け入れない者たちの姿が表されていると述べましたが、ここで「あなたを捜して」つまりイエシュアを捜しに来たことが記されています。この「捜す」という意味で使われている動詞パーカシュ(פָּקַד)は本来、「責任を取る、罪を負う」という意味で使われた言葉です。

【新改訳 2017】創世記

31:38 私があなたと一緒にいた二十年間、あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく、また私はあなたの群れの雄羊も食べませんでした。

31:39 野獣にかみ裂かれたものは、あなたのもとへ持って行かずに、私が負担しました。それなのに、あなたは昼盗まれたものや夜盗まれたものについてまでも、私に責任を負わせました。

これはヤコブすなわちイスラエルが、伯父のラバンに仕えていた時の様子を記したものですが、「私が負担しました。」と訳されている箇所に聖書で最初のパーカシュが使われています。このようにパーカシュとは本来、全ての責任、責めを一人で背負うことを意味していると考えられます。ですから母と兄弟たちがイエシュアを「あなたを捜して…」とは、イエシュアに全ての罪を負わせる、罪を着せることを指

し示していると考えられ、すなわちこれはイエシュアの十字架の死を指し示していると考えられ、またそれと同時に、イエシュアには失われたもの、奪われたものを取り戻す、回復するという責任が与えられていることをも指し示し、イエシュアが「イスラエルの失われた羊（マタイ 15:24）」を集めてイスラエルを再建し「神の国」を建て上げる全責任を持っておられることが表された言葉であると考えられます。

4. みこころ

そしてイエシュアは「3:33…わたしの母、わたしの兄弟とはだれでしょうか」と問われ、「3:34 …ご自分の周りに座っている人たち」こそがそれであると答えられました。すなわちそれは先ほど述べた通り、イエシュアを王として永遠にともに住まう、アブラハムの子孫であるイスラエルの民の存在が指し示されていると考えられます。またイエシュアは更に付け加えて「3:35 だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」とも言われました。この「神のみこころを行う人」とはどのような人でしょうか。「神のみこころ」という箇所には、ラーツォーン(רָצוֹן)という名詞が使われており、その最初の言及は創世記 49:6 です。

【新改訳 2017】創世記

49:5 シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。

49:6 わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。

これはヤコブすなわちイスラエルがその死の間際に息子たちを呼び寄せ、それぞれに語った預言の言葉の一節で、次男シメオンと三男レビに対して語られたものです。「彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。」と訳されている箇所に聖書で最初のラーツォーンがあります。このようにラーツォーンとは本来、怒りや殺意、剣で切ることを指し示す言葉であると考えられます。これが人の意志によるものであれば罪、悪となるかもしれませんが、「神のみこころ」とあるようにここでのラーツォーンが指し示すものは神の怒りです。そしてそれは当然神の敵に対して、神に逆らう者、聞き従わない者に対して向けられます。また「神のみこころを行う」という箇所に使われているアーサー(אָסֵר)は本来、分ける、区別することを指し示した言葉です。

【新改訳 2017】創世記

1:7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。

神は大空をアーサー「造り」、水を「分けられた」とあります。ですから「神のみこころを行う」とは、神に敵対する者どもを滅ぼし、神に選ばれた者とはっきり区別すること、すなわち裁くことを意味していると考えられます。イエシュアは御父である神の御心に聞き従ったゆえに、何のためらいもなく母と兄弟たちとの関係を断ち切り、ご自分とともにいた者たちとの関わりを求めました。これが「神のみこ

ころを行う人」であり、イエシュアはその模範を示されました。しかしそれは同時に、終わりの時代にもたらされる、神の裁きの厳しさをも表したものでした。ですからこの一連の出来事の中で、イエシュアの母と兄弟たちが家の中に入ることはなく、またイエシュアの方が外に出て行くということもありませんでした。この出来事が指し示すような神のご計画、預言がヨハネの黙示録にこのように記されています。

【新改訳 2017】ヨハネの黙示録

22:15 犬ども、魔術を行う者、淫らなことを行う者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべて偽りを好み、また行う者は、外にとどめられる。

イエシュアの母と兄弟たちが家の中に入れなかったのは、物理的に彼らの入る余地がなかったからだけではなく、この預言にある「外にとどめられる」者たちの「型」を表すためであったと考えられます。このような者たちは永遠に「神の国」には入れません。そしてただ入れないというだけではなく、それはすなわち永遠に「火の池」に入ることを意味しているのです。

【新改訳 2017】ヨハネの黙示録

20:15 いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

このように、神のご計画は「神の国」を建て上げることだけではなく、神がお選びにならなかった者たち、すなわち神に敵対する者、聞き従わない者「外にとどめられる」者たちをこの「火の池」に投げ込むことでもあるのです。神が定められたこのご計画、書かれたこのシナリオに、私たちが口をはさむ余地も権利もありません。全てはまさに「神のみこころ」のままに成就するのです。

5. 最後に

内か外か、救いか滅びか、すなわち永遠の「神の国」か永遠の「火の池」か。人が最後に行き着く先はこの二つのうちのどちらかしかありません。これが神のご計画についての最もシンプルな回答です。神はこの最後に向かって、着実に世界を、全ての人を導いておられます。これは決して神話や空想話や比喻などではありません。神の存在も聖書が指し示すそのご計画も全て現実であり、必ず起こることです。多くの人が現実だと思っている今のこの時代の方こそが目まぐるしく移り変わり、揺れ動く影や幻のようです。ですから私たちは聖書が指し示すこの現実に目を留め、これから目を逸らさないようにしましょう。それはすなわち聖書に記された神のご計画に目を留めることと同義です。聖書は精神修養や成功的で幸福な今を生きるための教科書やガイドブックではありません。もう一度言いますが聖書は必ず起こる神のご計画を指し示した、神によって記された神の約束の御言葉です。どうか御父が御霊を通して、私たち一人ひとりの聖書理解をこれからも深めさせてくださいますように。祈りましょう。